

日本地衣学会 No.47

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会員通信	163
	長崎県高島訪問記—日本の地衣類の先行採集者Almquistの足跡を訪ねて／山本好和	163

会員通信 From Members

長崎高島訪問記—日本の地衣類の先行採集者 Almquist の足跡を訪ねて

1878年6月22日、フィンランドの若き地衣学者 Ernst Bernhard Almquist を乗せた Vega 号はスウェーデン Karlskrona を船出し、北極海から東洋を目指した。率いるは、ストックホルム国立博物館の Nodenskiöld である。北極海で越冬後、翌 1879 年 9 月 2 日に横浜に到着、10 月 27 日に長崎を離れるまで、Almquist は横浜、富士山、神戸、広島（瀬戸内海の小島）、門司、長崎、高島で精力的に地衣類を採集した。後、1890 年に Nylander が Almquist の採集した標本を元に Lichenes Japoniae をまとめた。記載した種は 400 弱であり、これらの多くは基準標本となった。

Almquist が長崎高島を訪れてから約 125 年後、私と本会会員である田中慶太氏が 2004 年 5 月 29 日、長崎大波止港に集合、高速船で高島を目指すこととなった。長崎汽船の高速船コバルトクイーン（時刻表は <http://www.ops.dti.ne.jp/~takasima/access.html> 参照）は途中伊王島を経由し高島まで約 35 分、快適な船旅である。高島は長崎から南西約 16 km のところに位置し、東西 1 km、南北 2 km、周囲 4 km の小さな島である。炭鉱で有名だった島である。1695 年に石炭が発見され、炭鉱は 1868 年に本格操業を開始した。最盛期には 2 万人もの人が住み、島は人で埋め尽くされた感があったようだ。掘り出された石炭ガラで海岸などを埋め海岸や山裾に鉄筋のアパートや炭鉱住宅が建ち並んでいた。

1986 年に閉山し、今では人口 1000 人に満たず、アパートや炭鉱の建物も取り壊されて当時の面影はすっかりなくなっている。ところで佐賀藩と合併で高島炭鉱の開発に着手した人物は、かの有名なイギリス人トーマス・グラバーである。海岸にはそのグラバーの別邸があった。Almquist の乗る Vega 号はグラバーを訪問したのではなかろうか。操業後 10 年とはいえ多分その当時は、開発・繁栄・衰退の歴史をたどってきた現在とはまるで違う世界だったと思う。

上陸した私たちはまず交通混雑のため昼食を買い損ねた田中氏のために港付近の市場で昼食を求めた。田中氏は先に中学の理科教員研修でこの島を訪れたことがあり、その時に店屋が少なく買い物に苦労したとのことである。田中氏の案内で標高 100 m 余りの権現山山頂を目指す。私の狙いは *Lecanora gongensiana* である。Almquist の採集した標本を参考に、佐賀大・宮脇氏が高島で採集した標本を基準に命名した珍品である。国内では高島以外では宮崎県石崎浜と柏崎の海岸 2 箇所以外には知られていなかった。ところが京都保津峡で私が採集した標本の一つに本種があった。基準産地を訪ねてみたい。訪ねなければ気が済まない。私の因果な身分に導かれた。とはいえ暑い。蒸し暑い。秋田に移って 5 年、冷えた乾いた大気に慣れている身に辛い。しかもどこにもこれといった地衣がない。港から登ってダイダ

イゴケらしきものとレブラゴケらしきものが見受けられるのみだ。本当に Almquist の世界に触れることができるだろうか。ちょっと不安な気持ちでさらに登る。頂上は霧がかかっている。頂上近くなって雰囲気が変わってきた。岩がある。おっ！何かついている。ウメノキゴケだ。コフキチリナリアもある。ちょっと暗い凹みにはマツゲゴケもある。喜び勇んで山頂へと進む。山頂の3階建て展望台に登った。霧で見通しが悪く、残念ながら有名な端島（軍艦島）は見えなかった。代わりに足元のコンクリート上にキクハゴケ、クロウラムカデゴケの仲間が一面に広がっていた。展望台を下りて山頂から別の道を辿るとそこにチャシブゴケがあった。Lecanora gongensiana のような気がしたので、採集して宮脇氏に鑑定を依頼した。多分 Almquist もこの道を辿ったのだろうかと思えば、蒸し暑さも少しし忘れられた。

私たちの次なる目的地は島の北端の岬上にあるグラバー別邸跡である。125 年前に Almquist も訪ねたであろうその地は松林になっていた。海岸の岩場を見る。砂岩や砂礫岩で地衣はほとんど着いていなかった。でも何やらチャシブゴケがある。これも山頂で見たものと非常によく似ていた。海岸にはハマカラタチゴケ、松にはコナイボゴケがあった。風がありしばし休憩、青い空と海、夏が来ていた。

5 時間余りの高島での滞在は、蒸し暑くはあったが、楽しい時間だった。帰りの船の中、田中氏と再度の高島訪問（できればこんなに蒸し暑い日でなく）を約束し合った。ホテルに帰ってテレビを見ると長崎は梅雨入りしていた。

なお、Almquist が高島で採集して、Nylander が Lichenes Japaoniae (1890) に発表した地衣類は以下の通りである。これらの地衣類の学名は現在変更されて

●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌42号148ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 42, p. 148 of this publication.

いるものが多いが、相当する名称は Checklist (Harada et al. 2004) を参照して頂きたい。しかし、実際には同定間違いなどもあると思われ、正確を期すには現物に当る必要がある。高島は狭い地域であるに関わらず、たくさんの種類が報告され、多くの新種が記載されている。日本の地衣類を研究するのに極めて重要な場所と言える。

* * *

表 1. Almquist の採集した高島産地衣類 (発表当時のまま)

Collemopsis intervagans Nyl.
Lecanora atrynea (Ach.) Roehl. var. *melacarpa* Nyl.
Lecanora belonioides Nyl.
Lecanora erythrella Ach.
Lecanora gibberella Nyl.
Lecanora lamprocheila Nyl.
Lecanora leptopismoides Nyl.
Lecanora milvina Wahlenb.
Lecidea ocellifera Nyl.
Lecanora rhodopiza Nyl.
Lecanora subalbida Nyl.
Lecanora subfusca var. *expansa* Nyl.
Lecanora vitellinula Nyl.
Lecidea stellulata Taylor
Lecidea takashimana Nyl.
Parmelia conspersa (Ach.) Ach.
Pertusaria astomoides Nyl.
Pertusaria leucosoroides Nyl.
Physcia sciastra (Du Rietz) Nyl.
Pyrenopsis conturbatula Nyl.
Pyxine endochrysin Nyl.
Urceolaria actinostoma (Pers. ex Ach.) Pers.
Verrucaria pallidula auct. non Nyl.
Verrucaria glaucinodes Nyl.

(山本好和：秋田県立大学)

日本地衣学会ニュースレター 47号

発行日：2004年 12月 10日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内